

レビューシート(事業改善型)

様式 1

レビュー項目 (事業名)	視覚障害者の資格取得・就労のためのオーディオブックの充実強化 (視覚障害者情報取得等充実強化事業)				部(局)	福祉部	
					所管課	ユニバーサル推進課	
					担当班	社会参加支援班	
					連絡先	078-362-4379	
開始年度	令和元年度	終了年度	—		関連計画等	ユニバーサル社会づくりの推進に関する条例、障害者等の情報取得及び利用並びに意思疎通の手段の確保に関する条例、第2期ひょうご障害者福祉計画	
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国補助事業 <input type="checkbox"/> 県単独事業						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直執行 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他()					実施主体等	兵庫県聴覚障害者協会
事業目的	平成30年4月に「ユニバーサル社会づくりの推進に関する条例」及び「障害者等の情報取得及び利用並びに意思疎通の手段の確保に関する条例」が制定・施行されたことを踏まえ、視覚障害者（ロービジョン等の中途失明者を含む）の点字未習得者でも手軽に利用でき、重要な情報取得手段であるオーディオブックの充実強化を図る。特に、法律や経済分野等の専門書のオーディオブックは小説、文学作品等に比べて蔵書が少ないことから、視覚障害者の資格取得や就労に役立つよう、オーディオブックの作成等を進めることにより、視覚障害者の専門知識習得を促し、社会参加へつなげる。						
事業概要	オーディオブックの作成に必要な専門書を購入し、有償ボランティアを含む学生等の協力を得ながら作成している。併せて、一般事業者等が作成しているオーディオブックを購入している。図書の選定に当たっては、視覚障害者（利用者）や音訳ボランティア等からなる図書選定等委員会（委託先の兵庫県視覚障害者福祉協会において設置）の意見を聴取し選定している。						
これまでの改善状況	・令和4年度事業改善レビューにおける、外部委員会意見を踏まえ、視覚障害者が目指す社会参加の姿（就労やその他のための資格等）について、当事者団体の意見を聴取し、明確にした上で、目指す姿に応じたオーディオブックを作成している。 ・利用ニーズのある専門書が選定できるよう、図書選定等委員会で各分野の専門家の意見を聴取している。 ・音声化作業については、今後、より省力化が図れるAI技術が出てくれば活用を検討する。						
業務フロー	県（委託）→ 兵庫県視覚障害者福祉協会						

事業に要するコスト	区 分		4 年度決算額	5 年度決算額	6 年度当初予算額	7 年度当初予算額
	事業費①		6,053 千円	6,053 千円	5,553 千円	6,128 千円
	経 費 内 訳	報酬・賃金	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
		委託料	6,053 千円	6,053 千円	5,553 千円	6,128 千円
		補助金・交付金	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
		貸付金	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
		その他	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	(財源内訳)	(国庫)	(3,026千円)	(3,026千円)	(2,776千円)	(3,064千円)
		(特定)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)
		(起債)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)
		(一般財源)	(3,027千円)	(3,027千円)	(2,777千円)	(3,064千円)
	予算額② ※精算補正前の予算を記載		6,053 千円	6,053 千円	5,553 千円	6,128 千円
	執行率((①/②)×100)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	人件費③ (a+b+c)		従事人員 0.1人	従事人員 0.1人	従事人員 0.1人	従事人員 0.1人
			826 千円	825 千円	872 千円	900 千円
職員給与費 a		714 千円	716 千円	760 千円	790 千円	
賞与引当金繰入額 b		58 千円	59 千円	58 千円	59 千円	
退職手当引当金繰入額 c		54 千円	50 千円	54 千円	50 千円	
総コスト(①+③)		6,879 千円	6,878 千円	6,425 千円	7,028 千円	

レビューシート(事業改善型)

様式 1

指標名		区 分	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 実績	7 年度 目標	最終目標 【年度】
評価	成果指標(アウトカム指標①)	目 標	600	600	600	273	336
	オーディオブック(専門書)の利用回数	実 績 (見 込)	85	232	113	(273)	【R10年度】
		(単位当たりコスト)	(81 千円)	(30 千円)	(57 千円)	(24 千円)	
		達 成 率 (見 込)	14.2%	38.7%	18.8%	(100.0%)	
	成果指標(アウトカム指標②)	目 標	7.0%	7.0%	7.0%	7.0%	7.0%
	オーディオブック(専門書)の利用率	実 績 (見 込)	4.6%	9.9%	3.3%	(7.0%)	【R10年度】
		(単位当たりコスト)	—	—	—	—	
		達 成 率 (見 込)	65.3%	140.7%	47.4%	(100.0%)	
	活動指標(アウトプット指標①)	目 標	2,400	3,000	3,600	3,900	4,800
	オーディオブック(専門書)の 蔵書総数	実 績 (見 込)	1,861	2,355	3,401	(3,900)	【R10年度】
		(単位当たりコスト)	(4 千円)	(3 千円)	(2 千円)	(2 千円)	
		達 成 率 (見 込)	77.5%	78.5%	94.5%	(100.0%)	
活動指標(アウトプット指標②)	目 標	—	—	—	—	5	
オーディオブック(専門書)に関する 出前講座数	実 績 (見 込)	—	—	—	—	【R10年度】	
	(単位当たりコスト)	—	—	—	—		
	達 成 率 (見 込)	—	—	—	—		
終期設定	有 () ・ (無)						
改善基準							
自己評価	評価の視点	評価		目標に対する達成状況(総合的評価)			
	○有効性(評価指標に対する実績) ・県民ニーズを的確に踏まえた事業か ・民間での事業実施は見込めない事業か ・指標・目標設定は適切か ・活動実績は十分か ・想定された成果を達成しているか など	・専門書の利用冊数については、国会図書館との連携等により利用促進に努めているが利用は低調である。 ・購入は積極的に進めているが、作成は現行の職員体制やボランティア参加では大幅な増加は難しい ・図書選定委員会で、当事者や専門家の意見を聞き、ニーズの把握に努めている。 ・大学関係者の意見を聴取し、図書選定の参考としている。		オーディオブックの蔵書数増加に向けて、国会図書館との連携を図るなど工夫に努めているが、年度によって波があり目標未達が多くなっている。 蔵書総数増加にあたっては、自前作成分は1冊作成するのに相当時間を要し作業人員の確保に課題があるため、民間作成分の購入を進めているが、目標に及ばない状況であり、引き続きボランティアの活用を図りながら更なる増加に向けて取り組んでいく。 今後、学生等の視覚障害者のニーズをきめ細かく把握し、利用者の希望する専門書を増やすことで利用者増を図る。また、蔵書総数については、一定程度環境整備が進んできたため、一層の利用促進に向けた情報発信の強化等について検討していく。			
評価	○効率性(最小のコストで最大の効果) ・業務改革に取り組んでいるか ・コスト削減の工夫を行っているか ・ICTや民間活力は活用しているか ・受益者負担は適正か ・財源確保の工夫は行っているか など	・県立点字図書館の指定管理者である兵庫県視覚障害者福祉協会に事業を委託することで、人件費や賃料等のコストを削減することができている。 ・作成作業には専門知識と多大な時間を要することから、大学との包括連携協定に基づき、学生ボランティアの活用を図る仕組みを構築している。 ・国庫補助を活用している					
	課題・今後の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> その他						
評価	説明 (利用回数を増やすため、若年層(盲学校等)情報提供・PR方法、サービスの提供方法を検討する。)						
外部委員会意見	・利用回数だけでなく「利用率(例:図書館利用率7%)」を指標に加え、両方をアウトカム指標として設定すべき。 ・選定委員会が選んだ書籍の利用回数を把握し、委員会にフィードバックすることで、より効果的な選定が可能になるのではないか。 ・資格取得や就労支援に役立つ書籍のうち、ニーズが高い蔵書(例:社会福祉士、公務員試験の参考書など)を、重点的に整備することもあるのではないか。 ・特別支援学校などへのオーディオブック使い方ガイドの提供回数など、利用促進活動の量的指標を設定してはどうか。 ・利用者の声(成功事例)を活用した口コミ的広報等により、広報の強化を図ってはどうか。 ・蔵書の有効活用と事業の発展のため、有料化も視野に他自治体と蔵書の貸し出しや共同整備による効率化を試みてはどうか。また、オーディオブックそのものの利用拡大に向けて、将来的にはICT化・デジタル化の推進も目指してはどうか。						
改善結果							
・図書選定委員会の選んだ書籍の利用回数を把握し、同委員会にフィードバックすることで、よりニーズの高い図書の選定につなげる。 ・特別支援学校等にオーディオブックをPRするための出前講座等を実施し、視覚障害者に対する周知を強化するとともに、ニーズの把握に資する。 ・動画やチラシの作成により、オーディオブックの使用方法や効果等について、視覚障害者だけでなく保護者や支援者に対する周知を強化する。 ・他館との連携による効率的なオーディオブックの提供について検討する。 ・引き続き、ICT技術の活用による作成の効率化と利用のアクセスのしやすさや操作性等について検討する。							